



どこに目を向けるべきか

4月で広島経済同友会代表幹事の任期（2期4年）を終えた森信建設社長の森信秀樹さん（64）は入会以来、定住促進事業をはじめ、さまざまな同友会活動に全力でぶつかってきた。経済人を中心に会員850人を擁する大所帯だけに、ためらいもあつたらうが、等身大の自分をさらけだし、率先垂範の行動力を発揮した。快活で、よくよく勉強熱心。その一端をうかがわせる話がある。4月20・21日に仙台国際センターであった第30回「全国経済同友会セミナー」の第5分科会でパネラーを務めた森信さんは、

「広島空港は、この1年に香港便はLCCが入り、競合するフルサービスの航空会社が運休になりました。韓国便もアジアナが撤退して、その子会社のLCCが入っています。メジャー空港と異なり、地方都市ではLCCとフルサービスキャリアは両立できな

いのが現実です。

国内便では、広島の東に岡山空港、西に岩国錦帯橋空港があり、両方とも駐車場が無料です。広島空港は国が設置していますので、全て有料です。県東部の人は岡山へ、県西部の人は岩国へ行き、なかなか広島空港の利用率が伸びません。さらにアクセスは、リムジンバスは通常空港と広島駅は45分です。広島駅までJRに乗ろうとすると、いったんバスで最寄り駅へ行き、そこから乗り換えると55分ということ、バスの方が早く着くという少々変わったアクセスです。このバスは、高速道路が混むと遅延したり運休したりするのが難点。軌道系の乗り入れに消極的で、アクセスや駐車場などが広島空港の問題性とも言えます。

広島は、観光客数は随分増えていますが、その消費額は横ばいです。日帰りが多いことが原因だろうと思います。そこで県は観光政策の重点を、29年度は消費単価を上げようと考えました。これに私はカチンとききました。実は広島は札幌、仙台、福岡の中で国際会議などの開催数が最下位です。知名度はありながらビジネスストラベルのMICEではどこにも負けています。

都市機能委員会がまとめた提言の目玉は、築60年の広島県庁の移転です。私どもでは、街中のいい場所にある県庁の所にMICE施設を造りたいと提案しましたが、結局

は来年から20億円かけて耐震改修するそうです。「観光立県」を掲げる県の観光のセクションは観光のことだけ考えています。でも私たちは仙台に今MICEで来て、明日会議が終わったら観光客になります。だから、MICEも増やしていかないとには広島島の観光客数は増えません。観光客は、ただ単にリュックサックを背負った人ばかりではないのです。毎年どこかで開かれる会議がたまたま広島で開催されるから広島へ来て会議が終わったらそのまま観光する。「そこにどうしてスポットを当てないのだろうか」と言いましたら、「とにかく来年度は観光消費額を上げることだけを考える」ということで終わりました。観光客の求めるものが、モノ消費からコト消費へと変化していく中で、私たちはどこに目を向けるべきか、MICEへの取り組みなどあらゆる選択肢を考えていく必要があるのではないのでしょうか（要約）

少し手厳しいが、よほど広島を愛しているのだろう。